「空間」を「場所」に変えるまち育て　黒石市中町こみせ通りのまち歩きでまちづくりの現状を学びました

令和6年10月4日(金)に青森県立弘前高等技術専門校では、建築を学ぶ総合建築科1年生の学生を対象に、青森県県土整備部都市計画課の事業で実施している「景観アドバイザー制度」を利用して、まちづくりに対する関心と良好な景観形成への意識を育むことを目的として、まちづくりに積極的な地域を訪れてその取組を学ぶ「地域のまちづくりの現状を知るまち歩きフィールドワーク」を開催しました。

今回の講師は青森県景観アドバイザーである弘前大学特任教授の北原啓司先生を講師に迎え、「空間」を「場所」に変えるまち育て － 黒石市はおもしろい-を題材に黒石藩政時代から残る歴史的な建造物である「こみせ」の歴史や「ＮＰＯ法人横町十文字まちそだて会」の取組ついて、事例を提示していただきながら講演をしていただきました。

その後、黒石市中町のこみせ通りに移動し、銭湯を交流施設に改修した松の湯交流館で、黒石市商工観光部観光課の太田淳也課長から「まちそだてはひとそだてから」について説明があり、まちそだてと民間団体との関わりやこみせ通り周辺の空き店舗対策の現状について説明を受けました。

午後はこみせ通りの空き店舗となっていた建物を活用して、ねぷた絵を再利用して団扇や灯ろうの製作体験工房のIRODORIと空き店舗にシェアキッチンを備えて貸しスペースとしてオープンしたCircleこみせの方から直接、話を聞くことができました。

江戸時代からの木製アーケード「こみせ」通りを歩き、黒石のまちをもっと知ろう！をテーマに開催したまち歩きは、多くの方に協力していただき無事終えることができました。参加した学生からは「まちを歩いて初めて分かること、歩いてみないとわからないことがあるということを実感することができました」「まち歩きを通して地域資源や地域課題を見つけることができました」という感想がありました。今回の景観アドバイザー派遣事業に参加した学生が、自分の住むまちに対して興味を持ち、コミュニティ活動に理解を示すとともに地域への積極的な参画のきっかけとなることを期待したいと思います。

参加した学生からの感想

澁谷　颯
青森県立黒石高等学校卒業

令和6年10月4日に授業の一環として、黒石市のまちづくりの取組について学ぶ機会がありました。

私の住んでいる黒石市のことなので、はじめは知っていることばかりだろうと思っていましたが、実際に講演やまちあるきをして初めて知ることが多くあり、とても勉強になった一日でした。

こみせ通りは小さい頃から何気なく通っていましたが、私有地が歩道となっていたことや伝統的建造物群保存地区としていろいろな活動がされていて、毎年、その活動がこみせ通りを中心に広がっていることに驚きました。

地域の歴史については、小学校から高校までそれぞれの学校時代に調べる授業があったのでそれなりの知識はありましたが、建築を学び見る視点を変えると今まで気付かなかったことが見えてきたので、市内にある建物やまちづくりについて興味を持つことができました。

こみせ通りの空き店舗が現在は雑貨店やシェアキッチンになっており、各店舗から見たこみせの風景は、外から見る景色と異なりとても新鮮でした。こみせ通りは江戸時代から私有地にも関わらず、誰でも通ることができ、雨や雪が降っても天気に左右されず歩くことができる構造となっており、考えられた建物になっていることに関心を持ちました。

今までは近所にある観光地だと思っていましたが、今回の講演とまち歩きを通して黒石のまちは多くの方がアイディアを出して協力しながら、まちづくりをしていることに気付くことができました。私も黒石市内に住んでいるので、積極的に地域活動に参加し、地域資源の発掘と地域とのつながりを持ちたいと思います。